

職員による自己評価

実施：令和4年3月 回収6名

A環境面

1. 訓練室等スペース
83%確保されているとの評価だった。
2. 職員の配置数
83%が適切であるという評価だった。
3. 設備においてバリアフリー化の配慮
67%適切であるという評価だった。

B業務改善

4. 業務改善を進めるための参画
100%が評価していた。
5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか
100%の評価だった。
6. 自己評価結果の公開
100%が適切に公開しているという評価だった。
7. 外部評価について、
100%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。
8. 研修の機会確保
100%が評価しており、研修により質の向上を図っている評価を得た。

C適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成
100%が適切にできているとの評価だった。
10. 標準化されたアセスメントツールの使用
100%が使用できていると評価している。
11. 活動プログラムの立案
100%がチームで行うことが出来ていると評価している。
12. 活動プログラムの工夫
100%が固定化しないよう工夫していると評価している。
13. 課題設定に応じた支援内容
100%が出来ていると評価している。
14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成
100%が出来ていると評価している。
15. 支援開始前の打ち合わせ
100%が出来ていると評価している。
16. 支援終了時の振り返り
100%が出来ていると評価している。
17. 記録の徹底、支援の検証・改善
100%が出来ていると評価している。
18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し
100%が出来ていると評価している。

保護者による評価

実施：令和4年3月 回収74名

A環境面

1. 活動のスペース確保
94%確保されているとの評価であった。
2. 職員の専門性
96%が適切であるという評価を得られた。
3. 設備
81%がバリアフリー化の配慮がされていると評価していた。

B児童への支援内容

4. 個別支援計画作成
94%は客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価だった。
5. 活動プログラムの工夫
89%工夫されているという評価だった。

C事業所からの情報発信

6. 利用者負担や支援内容の説明
94%丁寧な説明がなされたという評価であった。
7. 子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解
91%できている評価であった。
8. 保護者面談や育児相談の支援
82%が適切に行われているという評価であった。
9. 保護者会など保護者同士の連携
59%しか評価がなく、どちらともいえないと評価したのが23%、機会が少ないと感じている方が1%、詳しくわからないと答えた方が16%だった。昨年度より評価は微減しているが、機会が少ないと感じる方は減っている。引き続きコロナ対策によって自粛傾向であったことが影響していると考えられる。
10. 苦情に対する対応
76%が適切に対応していると回答している。昨年度より低下しているが、分からないという回答が20%いるためと考えられる。
11. 意思疎通や情報伝達のための配慮
94%が適切であると評価している。
12. 情報発信について
97%が適切であると評価している。
13. 個人情報について
90%は十分に注意しているという評価であった。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせた支援
100%が出来ていると評価している。

D 関係機関と保護者との連携

20. 相談支援のサービス担当会議への参画
100%が適切な人材が参画していると評価している。

21. 学校との情報共有、連絡調整
100%が適切に行っていると評価している。

22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制
100%が適切にできていると評価している。これは
医的ケア児が当事業所にいないことが関係している
と考えられる評価である。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解
100%が出来ていると評価している。

24. 事業所を移行するときの情報提供
100%が出来ていると評価している。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用
100%が出来ていると評価している。

26. 地域自立支援協議会等への参加
100%が出来ていると評価している。

27. 利用者に関する保護者との共通理解
100%が出来ていると評価している。

28.ペアレントトレーニング等の保護者支援
83%が出来ていると評価している。

E 保護者への説明責任

29. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明
100%が丁寧な説明を行っているという評価がある。

30. 保護者からの相談対応の支援
83%が出来ていると評価している。

31. 保護者同士の連携の支援
100%が出来ていると評価している。

D 非常対応

14. 緊急時対応、防犯、感染症対応について、
96%が適切に対応していると評価している。

15. 非常災害の訓練
89%が適切に行われていると評価しており、子ども
に防災意識が出てきているとの記述があった。

E 満足度

16. 通所を楽しみにしている
評価は 75%であった。微減傾向であるが、ふれんど
は訓練要素が高いためであると考えられる。

17. 支援への満足
評価は 89%であった。昨年度に比べ、保護者の支援
に対する満足度は微増している。

事業所内での分析

【共通点】

環境面：職員の専門性、スペースの確保についてはともに高い評価が多かった。施設のバリアフリー化については支援員、保護者ともに不十分などがあると考えている。

児童への支援内容：職員・保護者ともに評価が高い内容が多かった。保護者からは個別支援、集団支援など子どもの特性に合わせたプログラムや保護者への丁寧な対応を評価していただく意見が多くあった。

事業所からの情報発信：職員・保護者も評価が上がっている。定期的に広報誌を発行したり、ICTを活用した連絡帳の導入により、個別的に双方向の情報共有がスムーズになったことが、評価に繋がったと考えられる。

非常対応：過半数が適切に情報共有出来ていると評価している。プログラム内容に、防災訓練を積極的に取り入れ、その内容の情報発信をしたことにより、保護者のご理解を得ることができたと考えられる。

【相違点】

環境面：特に相違点はなかった。

保護者への説明等：苦情対応についてはマニュアルに沿って対応させていただいていたものの、保護者のご認識とのずれがあった。

児童への支援内容：相違点は特に見受けられなかった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・職員に専門性がある。
- ・適切なアセスメントを行い客観的に分析し計画作成している。
- ・医療、学校、家庭や他機関（療育センター、児童相談所、区行政など）との連携が実践的に行なっている。
- ・保育所等訪問支援があり、学校での問題行動にも対応できる。
- ・臨床経験がある臨床心理士、看護師などの有資格者がいる事業所である。

事業所の改善点

- ・保護者へのフィードバックとして、子どもの様子や、事業所内での取り組みの内容等、情報共有をより丁寧に行っていく。
- ・保護者会や交流会を増やし、保護者同士の交流を促す。
- ・保護者とのタイムリーな情報共有からも、児の取り組むべき課題に沿ったプログラム内容を検討していく。
- ・保護者との面談を増やす。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 2階の階段の電気を点灯することは継続的に行う。また、階段を上ることに負荷がかかるご利用者は階段を上らずに支援が受けられるように1階での支援実施の配慮をしていく。

支援内容：

- ① 子どもや保護者の要望を話し合いながら取り入れ、計画的に活動プログラムの工夫を図る。
- ② 苦情対応のスタッフ間の手順の理解と丁寧な対応を学び実践していく。
- ③ 保護者からの相談内容は、担当者のみならず事業所全体で向き合っていく。

情報発信：

- ① 保護者会、談話会、交流会を定期的に開始する計画を立案実施する。
- ② 苦情対応について、契約書の説明の際に丁寧に説明をすると共に、広報誌でも周知できるように工夫をしていく。

非常対応：

- ① 緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定、保護者への説明や周知を徹底する。
- ② 災害時の訓練会の実施。

その他：

業務改善において、事業所スタッフが丸丸となつて共通理解を図り、支援をしていく。また、各支援員の強みや個性を活かしていけるような職場環境にしていく。

～自己評価を行つての事業所としての感想など～

課題点が去年と共通していることを再認識しました。保護者様からの評価を受け止め、改善が必要な点に沿った取り組みをより一層してまいります。そして、事業所の専門性、職員一人一人の支援の専門性を認めていただいている、評価されている部分を維持していくためにも、自己研鑽を続けていきたいと思ひます。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれんど
担当者 内 将治